アスパラガス若茎の品質向上に（高温時期の対策）について　令和6年6月　アグリ技研（

1.収量・品質・生育状況について　　【夏を上手く乗り切れることは春芽増収への第一歩】

昨年同様に本年も夏場にかけて高温の予想です、ハウス内の環境改善を図りましょう。

ハウス栽培では、ハウス内夜温25℃・地温28℃以上となると高温による異常若茎が見れますので可能な管理により

品質収量の向上に努めましょう。（因みに適温は、光合成15～25℃、地温伸長温20～25℃、気温40℃以上は停滞）

2.品質向上対策について

管理面	対策	資材（肥料）
水管理	土壌表面や燐芽群の乾燥は休眠や光合成作用低下となるために、晴天日の潅水は　毎日数回（2～3回）を少量多回数潅水する。灌水の気化熱で下温効果も期待できる。高温時期の夕方の灌水は朝迄地温抑制効果。 「斑点性抑制のために十分な換気も取り行う」	
温度管理	本来生育適温は25℃前後　施設の遮光資材（高温期のみ）や循環扇、妻面の開放など工夫する。 遮光することで地温抑制にもなるので品質向上にも繋がる。（～9月初旬迄で天候を見て除去する）	
地温抑制	地温28℃以上になれば極端に格外品増加となるので表面の温度を抑制する。　小まめな潅水とカルシウム材の処理⇒⇒**カルタマQ（卵殻）5～10袋/10a**　「地温抑制とカルシウム補給」	
茎葉の整理	①二次葉・枝の過剰は、草勢低下（光合成低下）となるので茎葉整理と**PKゴー2～3000倍処理（品質向上）**　②下枝の極端な除去は、畝表面に直性直射日光を当てるので品質低下となる（日々軽めな除去作業）	
施肥の対応	・吸収根の促進、樹勢維持⇒⇒**アミクエを月に3回程　5～10kg/10a（潅水処理）**	
	・アミノ酸液肥⇒⇒**ウルル10号を月に3回程　10～20kg/10a（潅水処理）**	
	・光合成促進、葉色濃⇒⇒**クドグリーンを月に5回程　500倍（葉面散布）又は珪酸苦土鉄を60日に2袋追**	
	・草勢維持⇒⇒**コラーゲン・ラボを月に5回程　500倍（葉面散布）**	
	・茎葉硬化、太物増加⇒⇒**PKゴーを月に3回程　2000倍（葉面散布）**	

≪高温時期の光合成促進は品質向上にもなります、受光を良くするためにも「珪酸苦土鉄」の施肥≫